

経済マンスリー [アジア]

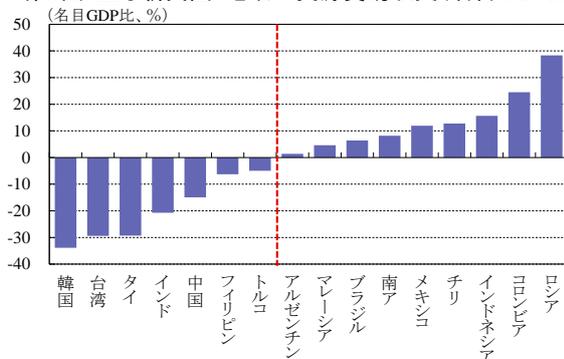
資源価格下落は総じてプラスながら、懸念される金融市場の不安定化

原油価格の下落を受け、産油国であるロシア・ルーブルの急落をはじめ、資源国通貨の下落圧力が強まるなか、アジアでも金融市場の不安定化が懸念されている。新興国通貨下落の背景には、①原油をはじめとする資源価格の大幅下落を受けたリスク回避の動きの強まりのほか、②米国における金融出口戦略を睨んだ新興国への資金流入ペースの鈍化などがあると考えられる。

アジアでは、原油をはじめとする資源の純輸入国が多く、資源価格の下落は全体としてみるとプラスの影響が大きいと考えられる。国・地域別では、韓国や台湾、タイ、インド、中国などは資源の純輸入国である一方、マレーシアとインドネシアは純輸出国である（第1図）。純輸入国では、貿易収支の改善のほか、インフレ率の低下による家計の購買力改善を通じた消費の押し上げや、補助金支出削減を通じた財政負担の軽減などのプラス効果も期待される。一方、純輸出国では、輸出の伸び悩みや企業収益の悪化に加え、国営石油会社からのロイヤルティ収入の減少などを通じた財政へのマイナス影響が重なる可能性がある。主要輸出品目の直近の価格をみると、マレーシアの主要輸出品目である石油・同製品が8月末比▲42.5%、天然ガスが同▲13.1%、インドネシアの主要輸出品目である石炭も同▲10.5%と大きく下落している（第1表）。また、両国通貨の下落率は、ロシアやブラジルほどではないものの、マレーシアが同▲10.3%、インドネシアが同▲6.9%に達している。加えて、インドであるが、資源の純輸入国で、資源価格の下落によってプラスの影響が見込まれるものの、国際金融市場のリスク回避姿勢の強まりを受け、ルピーは同▲4.6%と下落している。

アジア主要国では、1997年の通貨危機時に比べ、対外債務や外貨準備などファンダメンタルズ面での改善は進んでいるものの、資源価格の下落は様々なところに影響を及ぼし、金融市場を引き続き不安定化させる可能性には留意が必要だ。

第1図：主な新興国・地域の資源貿易収支（名目GDP比）



(注) 1. 資源は石油、石炭、鉄、鉄鋼、非鉄金属。
南アは鉱物、宝石・貴金属、鉄、鉄鋼、ベースメタルの合計。
2. 貿易収支、名目GDPは2010～2012年平均値。
(資料) IMF、南ア歳入庁、RIETI統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第1表：主な資源国の主要輸出品の価格および通貨下落率

	主要輸出品目 (資源)	輸出 シェア (%)	商品価格 下落率 (%)	通貨 下落率 (%)
ロシア	石油・同製品	61.9	▲ 42.5	▲ 60.6
	天然ガス	12.8	▲ 13.1	
ブラジル	鉄鉱石	13.4	▲ 21.1	▲ 18.9
	大豆	9.4	▲ 5.3	
マレーシア	石油	8.5	▲ 42.5	▲ 10.3
	天然ガス	8.2	▲ 13.1	
南アフリカ	鉱物(鉄鉱石等)	26.2	▲ 21.1	▲ 8.6
	貴石・貴金属(金等)	21.3	▲ 4.4	
インドネシア	石炭	13.4	▲ 10.5	▲ 6.9
	天然ガス	9.9	▲ 13.1	
アルゼンチン	大豆	16.1	▲ 5.3	▲ 1.8

(注) 商品価格および通貨下落率は8月末から直近までの変化。
(資料) 各国統計、Bloomberg統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 竹島 慎吾 shingo_takeshima@mufg.jp
福地 亜希 aki_fukuchi@mufg.jp
土屋 祐真 yuuma_tsuchiya@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。